
ロシアお嬢様の革命

翡翠 煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルシアお嬢様の革命

【Nコード】

N5948T

【作者名】

翡翠 煉

【あらすじ】

とある世界のとある国。

一人の少女がいた。

彼女は強かった。だから孤独であった。

ひとつの出会いまでは・・・

ご挨拶

始めまして。もしくはこんにちは翡翠煉です。

今回は完全なるオリジナル作品・・・じゃない気もしますが・・・

俺にとってはまったく新しいジャンルをやります！

・・・さすがにチート物だからね・・・

まあ、作者翡翠煉自信も展開がまったく予想できませんよ。

さて、どんな話になるのかな・・・

ちよい世界観紹介

まず、時代はあくまでも中世。

ただし科学が実際よりは優れてる。

地名は実際とはまったく違う。

舞台の場所は『首都アリンティン』という場所。

海に隣接しており、海産物を多く取ることができる。

こんなかんじかな？

それでは、本編をお楽しみに！

プロローグ1

中世という時代が始まる前、ヨーロッパと呼ばれる地域には平和な時代があった。

すべての国が他の国自分の国のために成長し、強くなっていく時代が・・・

しかし、中世の直前。争いが起きた。

それがきっかけで、のちに『戦争時代』とよばれる中世が始まったのである。

正史には存在しない国のひとつ『ルティア』と呼ばれる国があった。

中世が始まる前は栄えていた国なのだが、中世以降からは次々と国の力が弱くなっていったのである。

この国は戦力がない。少数精鋭であるからだ。

理由は簡単。魔物を倒すためだ。

中世前さまざまな国に魔物が攻めるのを見ていた姫は量より質を取り始めた。

それにより、魔物は倒せる。

しかし、魔物も集団化をはじめ、少数では厳しくなっていくのである。

さらに戦争がはじまり、国自体が厳しくなっていた。

首都にある少女が戦い始めるまでは・・・

プロローグ1（後書き）

と、いうことでプロローグはこんなかんじになりました！。

正直、エルシャ○イみたいなプロローグもありました。

それは没にしました。

まあ、考えてたのはある意味危険だったため・・・

そつえば、転生物やるかもしれない。

プロローグ2（前書き）

先の展開に矛盾があることに気づいた・・・

頑張ろう・・・

プロローグ 2

ある貴族がいた。

その貴族は国民からも国からも好かれていた。

理由は簡単。

王様の弟であるからまず国からは好かれる。

さらにいやみもなく国民に優しくしていたため国民にも好かれていた。

しかし、10年前、その貴族の4人の家族のうち3人が殺された。

理由は不明とされているが、真実は簡単。

事故に見せかけた他国からの暗殺だ・・・

この貴族の残り一人。

当時たった5歳の少女は思った。

私は強くなりたい。

いや、強くなるんだと・・・

そして・・・

この少女がこの話を紡ぐのである・・・

事の始まりは、彼女の休暇の日に来きたのである・・・

プロローグ2（後書き）

次回から本編に入ります！

さあ、どんな話になるのかな・・・

1 - 1 - 1 天才お嬢様の登場（前書き）

ラノベみたいに進めていこうと思います。

と、いうことは・・・

1 - 1 - 1 天才お嬢様の登場

「暇ね・・・」

彼女は暇をもてあますため、八〇テのごと〇を全巻読んでいた。

ちなみに、この世界にはテレビもあり漫画もある。

話を戻すが、彼女はルシア。

お嬢様である。

しかし、孤独である。

いや、訂正しよう。

一人であると・・・

彼女は血縁者はいない。

家族は母も父も姉も何者かに暗殺されてしまった。

いや、あれは暗殺など隠れたものではない。

馬車の上に落石。

たった一個の岩のせいで彼女は家族を失った。

とまあ、この話はやめよう。

で、彼女がいるこの国は戦争に弱かった。

しかし、彼女が現れてからは、戦力が拮抗し始めたため、この国に向かつての戦争が起こらなくなってきた。

理由は簡単。

彼女の二つ名は、『剣の舞姫』『無殺の少女』と呼ばれてる。

ようするに、彼女は人を殺すこともなく、剣だけで兵を戦闘不能にしてきた。

「・・・何もすることがないわね・・・」

彼女が動き始めたようなので話は止めておく。

「やっぱり、ハ〇テが一番面白いけど・・・ ほかの本も見ましようか・・・」

といい、彼女は町へいった。

1 - 1 - 1 天才お嬢様の登場（後書き）

煉「と、いうことで第一章第一話シーン1終わりました！」

ルシア「私の扱いってひどくない？」

煉「だって俺ってほとんど版權キャラしか使ってなかったし」

ルシア「次回からもっと出番を増やしてね」

煉「努力します」

1 - 1 - 2 天才お嬢様の出会い（前書き）

ハ〇テなどの漫画も存在しますが内容は微妙に違います。

・・・あ！ 書き方間違えた！

1 - 1 - 2 天才お嬢様の出会い

ルシアは本屋にいた。

「あの、これ全部ください」

「えっと・・・本50点で銀貨30枚（銀貨1枚で1000円程度）です」

店員が反応する

「はい」

すると、彼女は店員に銀貨を渡す。

ちなみに彼女はこの本屋の常連であり毎回たくさんの本を買っている。

ちなみに多いときは一気に200冊買ったらしい・・・

「ありがとうございますー またのご来店お待ちしております！」

笑顔で店員が言った。

「ちょっと買いすぎたかな・・・」

彼女はそう思っているが実際彼女は1日で10冊の本（しかも結構厚い）を見た記録があるので、この50冊を見終わるのにそこま

で時間はかからないだろう。漫画とかも多いし。

「速く帰ろう・・・ん、あれは？」

すると、遠くで・・・

「速く逃げろ！」

「早くしないと騎士が来る！」

「二人ほど回収するだけであれだけお金がもらえるからな・・・」

ヤクザの3人組が麻袋を持って逃げていた。

麻袋の中に人がいるのは目に見えていた。

「・・・悪い人ね・・・」

ルシアはそういい、ヤクザのところへ走る。

「騎士は来てるか！」

「まだ来てないぞ！」

「速くこいつらを運ぼうぜ！」

ヤクザは彼女にきずいていなく・・・

『パシッ』

ヤクザの一人の手を掴んだ。

「あら・・・誘拐のようですね・・・」

ルシアはヤクザにそう言い放った。

ヤクザは目の前にいる少女があのだ『ルシア』ときずかずに

「お嬢ちゃん。大人のことは入り込まないほうがいいぜ」
といてしまった。

「あら・・・それじゃあ・・・」

といい、ヤクザの一人を殴った。

「が・・・」

殴られたヤクザはすぐに気絶した。

「なんだあいつ！ 逃げろ！」

「あ、あいつがだれかわかった！ 速く逃げろぞ！」

残りの二人が逃げる。

「仲間をおいていったようね・・・」

といい、ルシアは麻袋の中を見る。

「中には二人もいるじゃない・・・気絶してるようですし・・・」

といい、とりあえず彼女は二人を自分の住んでいるところに連れて行くのであった。

これが、彼女の出会いであった・・・

1 - 1 - 2 天才お嬢様の出会い（後書き）

ルシア「と、いうことで第一章第一話シーン2が終わったようです」

煉「そだね・・・」

ルシア「作者は今日テストだったので精神がげんかいたったようです」

煉「テスト心配だー・・・」

ルシア「にしても・・・私強すぎない？ ヤクザとはいえ殴るだけで気絶させれるとか・・・」

1 - 1 - 3 天才お嬢様のきまぐれ（前書き）

書き方は分かりやすいようにします。

1 - 1 - 3 天才お嬢様のきまぐれ

ルシア「あ、よく見たらこれもう持ってたわ・・・」

彼女は漫画を見ていた。

ルシア「しょうがない・・・あとで返却しますか・・・ あの店常連だけ3日間だけ返却可能ですから・・・」

彼女はあの店によく行っているので・・・

ルシア「にしても、あの二人は・・・」

彼女はベットで寝てる二人を見た。

SIDE 少年

えっと・・・僕は・・・いきなり変な人が来て・・・『お前を連れてけばお金がもらえるから連れて行く』っていわれて気絶させられたんだよね・・・

僕・・・どうなっちゃうのかな・・・

妹は・・・大丈夫かな・・・

そう思ってた僕は目をあけたら・・・

「あら・・・目が覚めたようですね」

女の子がいた・
・
・

SIEDOUT

ルシア「あら……目が覚めたようですね」

少年「あの……貴方は……？」

ルシア「ルシア・フォーリアラ・エルレインよ」

少年「……へ？ えええええええ！」

一応言っておくが、彼女はこの国の英雄といってもいい人間である。

彼女がいなければこの国はもう存在しないのだから……

つまりそこまでくれば国民は全員している……

ように思えるが実はそこまで知っている人はいない。知ってるのは政治家とルシアがすんでいる家がある区域にすんでいる人くらいである。

理由は彼女が「国の重要な手札」でもあるからだ。

正直彼女は国がピンチになったとき、違う国と同盟を組むための力
ードでもあるのだ。

そのため、彼女のことはそこまであかされてはいない・・・

ルシア「まあ、貴方がどういう境遇かは知らないけど、私が貴方を助けたのよ」

少年「というところ・・・」

ルシア「ヤクザを追いつたのは私よ」

少年「あ・・・ありがとうございます！」

ルシア「ところで・・・なんでヤクザに狙われてたの？1億5千万・・・いや、3億の借金でもしてたの？」

少年「いや、なんでここで八〇テのネタを使うんですか・・・」

ルシア「好きだからよ」

少年「・・・」

ルシア「ところで、真面目に聞くけどなんで誘拐されそうだったの？」

少年「それが分からないんですよ・・・」

ルシア「・・・ところで・・・いまさらだけど・・・」

少年「なんですか・・・」

ルシア「貴方の名前は？」

少年「あ、僕の名前ですか・・・僕はライルっていいいます・・・
あ！妹は！」

ルシア「妹？ ああ、多分この娘ね。大丈夫。寝てるだけよ」

ライル「よかった・・・」

ルシア「ところで、貴方、どうするの？」

ライル「どうするって・・・」

ルシア「見たところ、貴方がさらわれる原因があるかもしれない・・・いや、あるの。だったら・・・戻ったら『ぜひさらってください』なんていつてるのと同じなのよ」

ライル「それは・・・」

ルシア「だから・・・しばらくはここに住みなさい」

ライル「・・・へ？」

ルシア「ここだったら特別危ないことはないわ」

ライル「・・・わかりました・・・」

こうして・・・彼女の生んだ気まぐれが・・・この話を展開していくのであった。

続く！

1 - 1 - 3 天才お嬢様のきまぐれ（後書き）

煉「というわけでやっと1 - 1話が完結しましたー」

ルシア「本当にやっと終わったわね。私の本名もできました。ここからどうなるの？」

煉「さあ？」

ルシア「さあって・・・まだ決まってないのね」

煉「まあね。あとさ、没になって設定だけどさあ、ライルたちに借金があるって設定もあつたんだよ」

ルシア「へえ。ところで、勝手に3億のほつのネタは使っていないの？」

煉「・・・」

間奏1 ルシア・フォーリアラ・エルレイン キャラ紹介（前書き）

間奏ではおまけ内容で行くつもりで、1から3はキャラ紹介になると思います。

ちなみに間奏は、話のパートが終わったらやっていくつもりです。

間奏1 ルシア・フォーリアラ・エルレイン キャラ紹介

名前 ルシア・フォーリアラ・エルレイン 女性 16歳

家族 父（死亡） 母（死亡） 姉（実質行方不明）

紹介

『剣の舞姫』『無殺の少女』という二つ名がある。

後者は戦争で一回も人を殺したことがない。つまり人を殺さずに戦闘不能に陥らせることができるほどの戦力差を持つ。

前者は、彼女の能力により言われているが・・・その能力は本編で。

基本は一人で住んでいるが、偶然現れた二人を家に住ませている。

ちなみに彼女の一番好きな漫画はハ〇テのごとく。

ぶっちゃけ言っちゃうとチート主。転生者ではないがそれに似ている。

間奏1 ルシア・フォーリアラ・エルレイン キャラ紹介（後書き）

煉「質問募集中です！」

1 - 2 - 1 突撃！私の家boyルシア（前書き）

今回はルシアの家に関する話です。

めっちゃ広いですよ。

1 - 2 - 1 突撃！私の家byルシア

ルシア「ということで、住むのであればどこにどんな部屋があるのかを知っておかないと住みずらいから、この家を紹介するわね」

ライル「はい・・・ところで、妹はどうすれば・・・」

ルシア「しばらくしたらおきるでしょう、だから先に・・・あ、そうか、そうすると後でもう一度紹介することになるから・・・待ちましょうか」

ライル「妹は僕がおこそうとしてもおきませんし・・・すいません・・・」

ルシア「いいのよ。そもそも私がここに住まないか？ って聞いたんだし。じゃあ、しばらくの間本を読むから、汚さなければこれでも見るといいわよ」

ライル「は・・・はあ・・・」

といい、ライルは渡されたライトノベル、『エンジェルアイドルエレン』という作品を読んだ。

ライル談、急展開が多かったが案外面白かったらしい。

ちなみに、ライルが1冊を見る間は90分ほどだったが、ルシアはその間に3冊の本を読み終えていた。

そして・・・

ライル「そろそろおきると思っんですが・・・」

ルシア「もうちょっと待ってみましょうよ」

???「Zzz・・・」

ライル「おい、早く起きてー」

ルシア「・・・強制的に起こす?」

ライル「そんなこと・・・できるんですか?」

ルシア「ええ」

といい、どこから木刀を1本取り出して・・・

ルシア「えいっ!」

ルシアは彼女をたたいた。

ライル「ちょっと、やめてください!」

ルシア「もう十分よ」

といい、木刀が消える。

ライル「あの・・・何でたたいたんですか?」

ルシア「あの木刀の効能よ」

ライル「あ、そうですね・・・」

???「・・・ここは・・・？」

ライル「あ、妹がおきました！」

ルシア「そう。じゃあ早速行きますか」

ライル「はい！」

???「え、ここはどこですか・・・というよりあなたはだれですか・・・」

続く！

1 - 2 - 1 突撃！私の家byルシア（後書き）

ルシア「ずいぶんと中途半端ね」

煉「そうだね・・・」

ライル「そういえば、エンジェルアイドルエレナについて簡単にどういう作品か教えてください」

煉「即興で考えた作品です。簡単な内容を言えば主人公である天使のエレナが力を使って戦ったり歌ったりといった話です」

ルシア ライル「ずいぶんと適当な・・・」

1・2・2 ルシア家のたくさんの部屋 開幕編（前書き）

家が大きいと一つ一つの部屋のことは覚えていられませんよね。

ま、俺には関係ないけど。

1 - 2 - 2 ルシア家のたくさんの部屋 開幕編

前回のあらすじ

ルシア 部屋を紹介する気しかない。

ライル それについて行く。

ライルの妹 混乱。

3人「これあらすじじゃないよね!？」

現在、3人は走っている・・・訂正。

ルシアが走っていて。ライルも走っている。そしてライルは妹の手を引っ張っている。

どこかの青春物のような光景だ。

???「ちょっと! お兄ちゃん、ここはどこ? とうつかあの人
は誰!？」

ライル「ルシアさんだよ!」

「???「え!」

ルシア「ということで、これからよろしくね。あ、ここまでの話はライル君から聞いてね」

「???「お兄ちゃん!どういうこと!」?」

ライル「えっとね・・・かくかくしかじか・・・」

「???「・・・うん。分からないよ」

ライル「とりあえず、ルシアさんは恩人ってことが分かってればマイはいいと思う」

マイ「・・・わかった・・・ルシアさん。ありがとうございます」

ルシア「そんなに硬くなくてもいいのに・・・」

マイ「え、は・・・はい。分かりました・・・」

ルシア「だから敬語とかかいいって・・・」

マイ「は・・・はい!」

ルシア「それでいいのよ。あ、まずはこの部屋ね」

この部屋の中には、本がたくさんあった。

漫画やライトノベル、文庫本のような作品から歴史書までさまざまなお本があった。

ライル「・・・すごい・・・」

マイ「こんなの本屋でも見れないよ・・・」

ルシア「あ、でもこの部屋の本より近所の本屋のほうが本はたくさんあるわよ」

ライル「そうなんですか・・・」

マイ「あ、これは涼〇ハ〇ヒの憂鬱!」

ルシア「いろいろな本があるからね、汚さなければいつでも読んでもいいわよ。で、次の部屋に行くわね」

で、またさっきのように走り出す。

1 - 2 - 2 ルシア家のたくさんの部屋 開幕編（後書き）

ルシア「親から言われたので強制終了のようです」

煉「すいません・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5948t/>

ルシアお嬢様の革命

2011年10月8日13時44分発行